

平成22年度

道徳

会報 No. 6

心輝け 子どもたち！

名古屋市道徳研究会

目 次

は じ め に

全体テーマについて P. 1

授業づくり研究会

基本を学び合おう！ 道德の授業づくり P. 2

- はじめに P. 2
- 資料理解 P. 3～4
- 導入 P. 5
- 展開前段 P. 6～8
- 展開後段 P. 9
- 終末 P. 10
- 夏季道德講座 P. 11
- おわりに P. 12

テーマ研究会

「いのち」の大切さを学ぶ道德教育 P. 13

- はじめに P. 13～14
- 関連プログラムの作成手順 P. 15
- 関連プログラムの実践例 1 P. 16～22
- 道德授業研究および研究協議会の様 P. 19～22
- 関連プログラムの実践例 2～5 P. 23～34
- まとめ・おわりに P. 35

本年度のあゆみ P. 36

あ と が き

は　じ　め　に

昨年9月、滋賀県のある中学校で行われた体育祭での出来事です。

二人三脚の要領で、1年生から3年生までの生徒たちが、横一列になって進む「270人271脚」のギネス記録に挑戦しました。生徒たちは足首に手ぬぐいを結んで、みごと50メートルを歩ききり、ギネスへの申請を予定していました。ところが、一人の男子生徒が、ゴールの数メートル手前で足の手ぬぐいがほどけたと申し出ました。学校は、ビデオなどで検証し、映像では事実の確認はできませんでしたが、申告した生徒の勇気を尊重し、申請をとりやめたという話です。

私は、この話を知り、申し出た本人の心の葛藤に思いを巡らしてみました。

「みんながあんなにギネスの新記録に湧いている。」

「ここで本当のことを打ち明けたら、がっかりするだろうな。」

「黙ってそのままにしておこうか。」

「でも本当にほどけてしまったんだ。この事実をごまかせない。」

「どうしたらいいんだろう。」

人は、時としてその場の雰囲気や利害関係に基づいた考えに左右されて、よりよい行為を取ることができない場合が多いものです。この男子生徒においても然りです。そんな大変な重圧の中、男子生徒は勇気を奮いたたせて誠実な判断をし、その考えを実践しました。

この素晴らしい実践力は一体どのようにして培われたのでしょうか。

私は、短絡的に道德の時間の指導や道德的な体験活動の成果などとは言いませんが、おそらく男子生徒のこれまでの成長の中で、脈々と培われてきた道德教育に依るところが大きいのではないかと思います。

ところで、名古屋市道德研究会では、道德の時間を^{かなめ}要とした道德教育について研究を進めています。本年度、授業づくり研究部会では「基本を学び合おう！道德の授業づくり」をテーマに掲げ、素朴な疑問を基に具体的な指導方法について研究を深めました。また、テーマ研究部会では、「『いのち』の大切さを学ぶ道德教育」をテーマに掲げ、他教科等の学習や体験活動と、道德の時間とを関連させた「関連プログラム」について研究を深めました。

両研究とも、冒頭の中学校の生徒のように、人が人としてよりよく生きようとする力を育てる取り組みであり、本市の道德教育の推進力になる素晴らしい研究内容となりました。ぜひ、本会報をお手元においていただき、授業にご活用いただければ、部員にとってこの上ない喜びになります。

最後になりましたが、研究の推進並びに会報刊行に際して、ご指導ご助言くださいました皆様方に厚くお礼申し上げます。また、本研究会の役員・部員の皆様のご努力に敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げます。

平成23年1月

名古屋市道德研究会顧問
名古屋市立城西小学校長
安 田 隆

平成22年度

名古屋市道徳研究会 全体テーマ

1 テーマ

「心輝け 子どもたち！」

2 テーマの主旨

新学習指導要領が公示され、道徳教育の要としての「道徳の時間」の役割が明記された。児童生徒の心身の成長に道徳教育が果たす役割は非常に大きい。

子どもたちは、私たちに素晴らしい笑顔を見せてくれる。その笑顔を見ると、我々教師、保護者、そして、地域の方は、ホッとしたり、心が洗われたような気持ちになったりする。時には、皆がその笑顔に励まされたり、明日への活力を与えてもらったりすることもある。子どもたちの笑顔は、まさに宝物である。

子どもたちの笑顔はどこから来るのだろうか？それは、純真な心をもって、これからの夢や未来に向かって生きているからだ考える。そんな子どもたちが、笑顔いっぱい過ごしているこれからの自分や自分の周りにいる人たちの様子を思い浮かべ、希望や夢に向かって一歩ずつ歩いていこうとするようになってほしい。

子どもたちが、そんな前向きな姿に向かって進もうと考えることができたときを「心が輝いている」ととらえ、子どもたちが笑顔いっぱいの生活を送ることができるよう実践を積み重ねていきたい。



基本を学び合おう！道徳の授業づくり

I はじめに



中学校経験
1年目

「道徳の授業って難しいです。
子どもがなかなか発言しません…。」

「今日の道徳，うまくいかなかったな。」「道徳の授業って難しい。」と思ったことはありませんか。また，「資料の主人公の気持ちを聞いただけで終わってしまい，子どもたちの考えが深まらない。」「力が入ると思わず説教になってしまう。」というような悩みはありませんか。実際，若手からベテランまで多くの先生方から道徳の授業について様々な悩みを聞きます。

では，いったいどのように道徳の授業をすればよいのでしょうか。

道徳の授業を子どもたちにとって真に意味がある時間にするためには，教師自身が，道徳の特質をふまえ，授業づくりの基本をじっくり学ぶことが大切であると考えます。

そこで，本部会では，道徳の授業づくりの基本となるテーマを毎回決め，具体的な授業の指導法について部員のみなさんと学び合うようにしました。

II 今年度の活動について

【今年度の部会の流れ】

① 近況報告タイム

(道徳や学級経営についての悩み・疑問などを出し合う。)

② 持ち寄りタイム

(前回の部会で学習したテーマを意識した資料，授業のアイデア，指導案，実践記録などを部員が持ち寄り，検討する。)

③ 提案タイム

(次回部会のテーマにかかわる学習会を行う。)

※ 部員は次回までにそのテーマを基に実践を進める。



部会で学び合った基本的な事柄から，この会報では，「資料理解のポイント」「導入の役割」「展開前段での指導」「展開後段での指導」「終末の説話」について紹介します。

先生方から道徳についてよく出される「悩み・疑問」に答えられるように紙面をまとめました。道徳の授業をされるときに少しでもお役に立てば幸いです。

資料理解のポイント



小学校経験
3年目

読み物資料を読んでも、今ひとつ心にグッと来ません。どこをポイントにすれば、よいのでしょうか。

もっと感動的な話は、ありませんか。

映画や小説には、たくさん感動的な話があるけど…。

【部会での話し合い】



感動的な話を味わうというよりも、道徳の時間は、子ども自身が考える時間にしたいよね。

子どもに考えさせるには、まず教師が資料をよく読まないとい…。



では、どうやって読めば、資料をより深く理解できるのでしょうか？

教師が資料をより深く理解するには… 【学習会で示した例】

- 1 話の内容をつかみながら読む。
- 2 登場人物全員の気持ちを考えながら読む。
- 3 主人公の気持ちが一番変化したところはどこかを考えながら読む。
- 4 人間の姿の弱さやずるさにも目を向けて読む。

※ 資料に取り上げられている主人公の姿と一般的な人間の姿（弱さやずるさ等を含めた人間の姿）を比べながら読む。

【部員の提案を基に資料理解のポイントについて学び合う様子】

- ・ 主題名 ポケット二つ 4-(1) 規則の尊重, 公德心 (出典: 明るい心2年 県教振)
- ・ ねらい 借りた物を丁寧に扱うことの大切さが分かり, きちんと返すという約束やきまりを守ろうとする気持ちをもつ。

【資料の概要】

①二つの気持ちのポケットがある。

②トシ君には悪いポケットしかない。

③大切なカブトムシが…

④人のものも大切に…

僕から見ると人の物を大切にしないトシ君には悪い気持ちのポケットしかないようだ。しかし、トシ君の大切なカブトムシが逃げてしまい、トシ君は泣き続けた後、改心する。

きょう トシくんが なきながら あるいて いた。カブトムシが にげて しまったんだって。

「かってくれば いいんじゃないかったの。」

「ぼくは いった。」

「ぼくの カブトムシで なくちゃ いやだ。」

トシくんは なきつづけた。

気持ちが一番変化したところ

それからは、トシくんは じぶんのもの、人のものも、たいせつにするようになった。トシくんの ころにも、いい 気持ちが入っている ポケット、できた みたい。

主人公の気持ちが一番変化したところは、この間だと思います。

気持ちの変化を考える。

そうか…泣いているときの気持ちを考えさせると「悲しい」「嫌だ。」しか出てこないね。

人は「自分のものは大切にすけど、他人のものは大切にしないことがあるな…。」

人間の弱さやずるさにも目を向けて読む。

【資料『ポケット二つ』の最終ページ】

資料理解のキーポイント

- ・ 主人公の気持ちが一番変化するところはどこかを考えて読む。(行間まで含めて考える。)

導入の役割

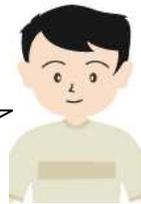


導入で盛り上がってしまい、
つい時間が足りなくなっ
てしまうのですが…。



短くてインパクトのある導入が
よいですね。絵や写真、実物な
ど見せると集中しますよ。

私は導入で「新聞でこんな記事
があったよ。」と話して、ねら
いへの方向付けをしています。



子どもに「自分とかか
わりがありそうだ。」
「考えてみようかな。」
という意識をもたせる
ことが大切ですね。

導入の役割は… 【学習会で示した例】



・ ねらいとする価値への方向付け

→ 資料には、人の行為が書かれており、行為は様々な価値に支えられて
いる。導入で焦点をしぼると、子どもがねらいとする価値へ目を向けやすくなる。

・ 雰囲気作り・構え

→ 明るいながらも真剣に考えようという雰囲気作りをする。反省で始まると、雰囲気が
重くなりやすい。

・ 資料への方向付け

→ 資料に対する関心をもたせて、資料の世界に入りやすくする。資料の時代背景や登場
人物の説明が必要な場合は、一枚絵と名前、関係などを提示するとよい。

導入のキーポイント

- ・ 何のために導入を行うのか、役割を考える。
- ・ 時間をかけ過ぎないようにする。

展開前段での指導

 展開前段とは… 資料を基にねらいとする価値についてクラスのみみんなで考える場。



小学校経験
2年目

主人公の「気持ち」を聞くことが多いのですが、発問を考えるときのポイントを教えてください。

「気持ち」を聞くと、子どもたちから「悲しい」「うれしい」「楽しい」など、主に心情に関する発言が出てくるよね。



【部会での話し合い】

もし期待する発言が出なかったら、どうやって問い返すかを考えておくことも大切だと思います。

私は、同じ発言でも、理由は違うので、「どうして悲しいと思ったの？」などと問い返すようにしています。

発問を考えるときの基本 【学習会で示した例】

- 「主人公はどんな気持ちだったのでしょうか。」 → 心情
- 「主人公はどう考えたのでしょうか。」 → 判断力
- 「主人公はどうしようと思ったのでしょうか。」 → 実践意欲と態度

※ 基本を応用させて、自分なりの発問の仕方を身に付けてください。

発問の応用例

- 多様な考えを出す発問例…「どのような考えが主人公の頭の中を駆け巡ったのだろうか。」
- 多様な発言を絞りこむ発問例…「主人公の行動を一番後押ししたのは、みんなが考えた気持ちの中のどれだろう。」
- 主人公の人間らしさについて目を向けさせる発問例…「この主人公は、『みんなのために』という思いだけで初めから行動していたのだろうか。」



発問を考えるときのキーポイント

- 気持ちを問うのか、考えを問うのか、多様な考えを出したいのか、絞っていくのかなど「発問」の目的を考える。



道徳の時間が国語の「読み取り」のようになってしまいます。



道徳の時間は、資料を基に、登場人物に託して、自分の気持ちを語らせることが多いですね。

資料の世界に子どもたちが入り込み、考えるためには、読み取りができていることが大切です。少し難しい話の場合には、解説をしたり、絵や写真を見せたりするなど、実態に応じた資料の読み取りの工夫や配慮をしてください。

子どもたちの発言の根拠の違いを意識して、発問を考えるとよいと思います。

【発言の根拠】

国語…文章の叙述から

道徳…子ども自身の生活経験、心情、判断などから



では、どう発問すれば、国語の「読み取り」と区別できるのでしょうか？

国語の「読み取り」との違いを出すには…【学習会で示した例】

- 「読み取り」発問を減らす。(または、区別して使う。)
「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どうした」
- 「読み取り」の正答は、教師が初めから話す。
「主人公は、ここではこう考え、最後はこう考えたんだろうね。だから、こういうこともきちんとできたんだね。」



(子どもたちの「うなずき」を確認してから)



「こう考えるまでに、主人公はずいぶんと迷ったと思うんだけど、どんなことを考えたのかな。」



子ども自身の経験、心情、判断を基にした多様な発言



小学校経験
5年目

子どもたちの発言が建て前のように感じ、本音で話していないような気がするのですが…。

そもそも、建て前や本音ってどんな発言なのかな？

本音って思ったことを隠さず何でも言うことでしょうか。

私は、子どもが一生懸命考えた発言に対して、建て前って決めつけるのは、よくないと思うな…。



自分は、昔「本音が出た。」と喜んでいただけ、本音ばかり追い求めるのはどうかと今は考えています。

【部会での話し合い】



道徳における本音とは、「本心を包み隠さず言う。」というより、一人一人の子どもから今もっている価値観に即した発言が主人公に託して出てくることだと思います。

また、ここでいう建て前の発言というのは、模範解答のような一面的な発言のことを指しているのだと思います。ですから、もっと人間の弱さやずるさなどにも目を向けた発言をさせたいということでしょうか。

発言の内容が一面的だなと感じたら…【学習会で示した例】

- ・ 「先生だったら、〇〇という気持ちもあると思ったんだけど、主人公にそういう気持ちはあると思う？」と投げ掛けてみることもよい。



発問を考えた後のキーポイント

「発問を考えたら…」

→発問に対する「予想される子どもの発言」を考えます。

- ・ 担任の強みは、学級の子ども一人一人の視点で考えられること。「あの子だったらこう言うかな…」と具体的に思い浮かべてみてください。

展開後段での指導

 展開後段とは… 資料を離れ、自分自身や友達的生活全般に目を向けさせる場。今までの自分はどうかだったのか、また、これからの人生をどのように生きていきたいかを見つめさせる。



小学校経験
6年目

資料のところでは、頑張って考えていても、展開後段になると急に、「ありません。」が多くなります。



まず、どのような理由で発言できないかを考える必要があります。

- ・ 言葉にうまく表現できない。
- ・ 資料と自分の体験とが結びついていない。
- ・ 学級での人間関係を気にしている。

私は、毎週の道徳の時間で繰り返し「主人公と似たところある？」と聞いています。子どもたちも慣れてきますよ。

私は、「主人公みたいに『しまった！』と思ったことってある？」というように展開前段で子どもたちから出てきた発言を取り上げて展開後段の発問にしています。



【部会での話し合い】

私は、子ども自身の思いを端的に表すために授業の中で川柳にまとめさせています。

僕は、子どもたちの「日記」の中から子どもたちの姿を紹介しています。子どもたちが、話しやすい雰囲気作りにもなりますよ。



展開後段のキーポイント

- ・ 普段から自分自身のことを語らせたり、日常的に自分自身をふり返らせたりするように働き掛ける。

終末での説話



小学校経験
3年目

終末の教師の説話が苦手で、
ねらいに関係するような体験
談もあまりありません。

体験談がない場合は、先輩の先生に
聞いてみるのがお勧めです。自分の
話だと照れやすい人は特に…。

BGMを流すと、雰囲気
が出ますよ。子どもの気
持ちも高まります。



【部会での話し合い】

私は、自分の失敗談を交え
ながら話すようにしてい
ます。

普段から新聞や本などで気
になる話に出会ったら取っ
ておくとよいと思います。

終末の役割は… 【学習会で示した例】

・ 学習内容のまとめ

→ 学習の充実感を大切に、学習内容が心に残るようにする
ことが大切。

※ 「今日の授業はこんなことを考えたね」など、板書をふり
返りながら授業のまとめをしてもよい。(特に小学校低学年)

・ 実践への意欲付け

→ 教師の説話や子どもの日記の紹介、心のノートの関連ページの読み聞か
せなどをして意欲付けをする。

慣れてくれば説
話が楽しくなり
ますよ。



終末のキーポイント

- ・ 短時間でまとめるようにする。
- ・ 決意表明や行為の強制にならないように注意する。

IV 夏季道德講座 「何故、道德の時間が必要ですか」

8月30日、城西小学校長安田隆先生を講師とし、「何故、道德の時間が必要ですか」というテーマで道德の授業について熱く講演していただきました。

道德の時間について

バーチャルな場だからこそ言えるんです！

- 資料をもとに、無意識であったことを意識化させる時間です！
バーチャルな世界である資料の中で考えるから、自由に意見が言えます。
また、自由な意見が聞けます。

バーチャルなままでは終わらせない！

- 生き方の幅が広がる時間です！
「自分はどうであったのか、自分はどうなんだろう？」と、自分とのかかわりを考えさせること。これこそが道德の時間の指導で一番大切にしたいことです。そして、自分なりに発展させることが大切です！



【ペープサートを持って、お話をされる安田先生】



【楽しく受講する参加者】

- ・ 将来出会うであろう場面で、いろいろな場合や可能性を考え、主体的に選択できる子どもを育てたい。
- ・ 毎週一時間の道德の時間に種をまかないと、思いやりの心や生命を大切にする心の花は、咲かない。
- ・ 道德の授業をやればやるほど子どものよさが出る。そんな授業をたくさん実践しよう。

安田校長先生のお話から、子どもたちが「無意識」のうちに何となく感じていたことを「意識化」させるのが道德の時間であること、また、「自分はどうであったのか、自分はどうなんだろう？」と、自分とのかかわりを考えさせることが、道德の時間の指導で一番大切であることが分かりました。「道德の授業をやればやるほど子どものよさが出る。」この言葉を忘れずに、毎週の道德の時間でしっかり実践していきたいと思いました。

参加者の声

- 道德主任になり、案内を見て初めて参加しました。研究会に入っていないなくても分かる内容でよかったです。
- 夏季道德講座は、ベテランから若手まで、また道德の部員以外の方まで受けてほしい内容だと思いました。

V おわりに

部員の声

- 道徳の授業は、なかなか奥が深い。
(だからおもしろい。)
- 資料理解の大切さが分かった。
- 週一時間の道徳の授業を大切にすることで、子どもたちも教師も、道徳の力がついてくる。



【部会での模擬授業の様子】

本年度、「基本を学び合おう！道徳の授業づくり」をテーマに部会で検討し、道徳についての「悩み・疑問」を出し合うようにしました。

「道徳についての『悩み・疑問』」チェックリスト

当てはまるものにチェックマークを入れてください。

	・ 教師が熱くなってついしゃべり過ぎてしまう。
	・ 途中で子どもがあきてくる。
	・ 発問で、どのような言葉が一番よいのか迷ってしまう。
	・ 展開や終末のまとめ方がよく分からない。
	・ 発言する子どもが少ない。
	・ 準備ができてなくて、先延ばしにしてしまう。
	・ 子どもの答えが、堅い。

この会報を読んでくださっている先生方は、いくつ当てはまりましたでしょうか。「問い」があるから「答え」があります。その「悩み・疑問」の答えの一助になれば幸いです。

授業を行った上で新たな「悩み・疑問」が出てきましたら、遠慮なくお尋ねください。

今後も、子どもも教師も楽しめるような魅力ある道徳の授業づくりに取り組んでいきます。先生方の参加を心よりお待ちしております。

「いのち」の大切さを学ぶ道徳教育



I はじめに

現在、わたしたちを取り巻く社会では、日々、心を痛める事件が起こり、報道もされています。中でも、青少年にかかわる事件は毎日頻繁に発生しています。一時の感情や自分本位の都合で人を傷つける。命を奪ってしまう。人をだましてお金を奪う。インターネット上で匿名で人を中傷する。こうした現状の根底には、自他の「いのち」（存在）を軽視する風潮があるのではないのでしょうか。「いのち」は大切なものだと分かっているにもかかわらず、自分とのかかわりの中で「いのち」がどうして大切なのか、主体的に自覚できていないのではないのでしょうか。そして、子どもたちだけでなく、我々大人も、共に「いのち」の大切さについて、じっくり考える時期に来ていると思います。

こうした実態から、本部会では道徳教育を通して「自分の『いのち』も他者の『いのち』（人間以外の生物の『いのち』も含む）も尊重し大切に、共に支え合い生きていくべきである。」という望ましい生命観をもった子どもを育てたいと考えました。（「生命」「命」を生物学的にとらえるだけでなく、広い意味で生き方にかかわるものとしてとらえるために「いのち」と表記することにしました。）

II 「いのち」の大切さをどうとらえるか

本部会では、「いのち」の大切さを次の五つの視点でとらえました。

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 【有限性・唯一性】 | … たった一つ、一度しかない「いのち」 |
| 【連続性・継続性】 | … ずっと昔から脈々と受け継がれ、未来へ受け継いでいく「いのち」 |
| 【神秘性・偶然性】 | … 多くの偶然が重なり、授かった「いのち」 |
| 【共存性・共生性】 | … 自然や人とのかかわりの中で生きている「いのち」 |
| 【存在性・尊厳性】 | … 決して侵すことのできない尊い「いのち」 |



Ⅲ 「いのち」の大切さを学ぶ道徳教育

子どもたちに「いのち」について尋ねてみると、『いのち』は、たった一つしかないから大切。」「親からもらった『いのち』だから大事にしたい。」「『いのち』があるから、やりたいことがやれる。」という答えが返ってきます。ほとんどの子どもが「いのち」が大切だと認識しているようです。また、今までの生活体験や、教科や総合的な学習の時間、学級活動、行事など様々な学習場面で、「いのち」の大切さを感じたり、気付いたりしています。しかし、その感じ方、気付き方は人それぞれです。そこで、様々な学習場面での共通体験を通して、「いのち」の大切さについて感じたり、気付いたりしたことを道徳の時間に発表し合い、共有し合い、共感し合うことで、「いのち」の大切さを様々な視点からとらえられるようにすることが大切だと考えます。こうした学習を繰り返すうち、「いのち」の大切さが実感できるようになると考えました。



そして、新学習指導要領解説には、生命の尊さについて考えを深めるには、「社会的なかかわりの中での生命や、自然の中での生命、さらには、生命の尊厳性など、多面的な視点から考えを深めていくことが重要である。」とあります。また、今日的課題として、各教科等における道徳教育の推進が重視されています。

そこで、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動での体験活動において、「いのち」を多面的（前述の五つの視点）にとらえさせ、道徳の時間を^{かなめ}要として、各教科等の学習や体験活動と、道徳の時間とを意図的に関連させた道徳教育が有効であると考えました。本部会では各教科等の学習や体験活動と、道徳の時間とを関連させた道徳教育を「関連プログラム」と名付け、実践していくことにしました。

Ⅳ 「関連プログラム」について

本部会では、次のような手順で「関連プログラム」を作成し、実践することになりました。

「関連プログラム」の作成手順



手順①

学年や子どもの実態に合わせて、一年間を見通して、五つの視点のうち、どの視点の実践を、いつ行うかを定める。年間で五つすべてを網羅するのは難しいので、発達段階に合わせて、この中のいくつかを選択する。

手順②

学年や子どもの実態に合わせたねらいを設定する。学習指導要領「内容項目の指導の観点」を参考にするとよい。

手順③

道徳の時間（2時間以上設定してもよい）を要として、関連付けられる各教科の学習や、行事での体験活動などをピックアップする。（1学期なら1学期だけでというようにその学期内で行う。）

手順④

選択した「いのち」の視点について、各教科の学習や行事で、どのようなアプローチ（学習活動、手だて）を行うか考える。

(例) **社会科** 「わたしたちの生活と工業生産」（5年生）の学習で、なぜ企業が環境に配慮した取り組みをするのかを話し合う。【共存性・共生性】

理科 「植物のそだち方」（3年生）の学習で、「種→花→実→種」という植物（「いのち」）のつながりについて、感想を発表し合う。【連続性・継続性】

手順⑤

道徳の時間では、関連付けられる各教科の学習や、行事での体験活動などを振り返らせ、選択した「いのち」の視点について強く印象付けたり、考えさせたりできるようにする。

(例) **導入** 「理科の植物の学習で植物の『いのち』はつながっているという話をしたよね。人間の『いのち』はどうかね。」【連続性・継続性】

展開後段 「今日の話や中津川での活動を振り返りながら、自然と人間はどうつき合っていくのがよいのか話し合ひましょう。」【共存性・共生性】

手順⑥

これらの学習を『【〇〇性・〇〇性】に重点を置いた「関連プログラム』』として構成する。

V 「関連プログラム」の実践例1（代表授業研究）

【共存性・共生性】に重点を置いた「関連プログラム」

小学校5年生〔9～10月〕

プログラムのねらい

自然の中で生きている人間と他の生き物のかかわりについて考えることで、人間も他の生き物も互いに支え合って生きていることに気づき、自然や、他の生き物の「いのち」を大切にしようとする意識を高める。

① 総合的な学習の時間

『いのち』をありがとう（2時間）

食育を通して、自分たちは多くの生き物の「いのち」をいただいていることに気付く。



〔食育のポスター〕

② 道徳

『いただきます』ということ（1時間）

3－(1) 生命の尊重

自分が他の生き物の「いのち」に支えられていることに気づき、他の生き物に感謝する気持ちを高める。



〔資料の一場面〕

③ 総合的な学習の時間

「ナゴヤメダカを育てよう」（環境学習の一環）

ナゴヤメダカの飼育活動を振り返り、自分も生き物の「いのち」を支えていることに気付く。



〔ナゴヤメダカ〕

④ 社会科

「わたしたちの生活と工業生産」（23時間）

企業が行う環境保全の取り組みについての学習を通して、人間も、自然や他の生き物の「いのち」を支えていることに気付く。



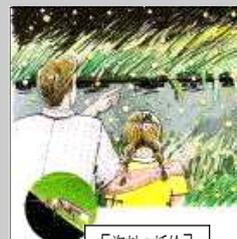
〔ハイブリッドカー〕

⑤ 道徳

「ホタルの舞う里」（1時間）

3－(2) 自然愛・環境保全

これまでの学習を振り返り、自分を含めた全ての生き物が互いに支え合って生きていることに気づき、共に生きていこうとする気持ちを高める。



〔資料の挿絵〕

① 総合的な学習の時間「いのちをありがとう」

活動

- 食べ物がどこで生産されているのか考えることで、人は自然の中で育ってきた動物や植物の「いのち」をいただいていることを確認する。
- なぜ「いただきます」と言うかを考える。
- ビデオ「ブタさん、いのちをありがとう※」（著作：上田食肉衛生検査所）を視聴する。
※ ブタが誕生してから食肉センターでパック詰めにされるまでの過程を、イラストやテロップを使って児童向けにわかりやすくまとめたもの。



「ブタさん、いのちをありがとう」のイラスト

〔児童の意識〕

食材の生産地調べの段階では、表面的な理解にとどまっているようだったが、ブタがパック詰めされるまでの映像を見たことで、「いのち」をもらっていることが実感できた。

② 道徳「『いただきます』ということ」 3-1 生命の尊重

（出典：「みんなでかんがえるどうとく1年」日本標準）

〔導入〕

- 「いただきます」と言うことの意味について考えたことを振り返る。

〔展開前段〕

- 主人公（母）の気持ちを考える（抜粋：中心場面）



〔資料の一場面〕

娘が「ライオンなんか死んじゃえ」と言ったとき、お母さんは、どう思ったでしょう。



（他の生き物から）「いのち」をもらって、人もライオンも生きているんだということを知らせたい。

〔展開後段〕

- 改めて「いただきます」という言葉の意味について話し合う。

【展開後段での児童の発言】

- 「いのち」をもらっていることを思いながら食べたい。
- 多くの「いのち」に支えられているから、残さず食べたい。

[児童の意識]

「いのち」の重さを真剣に意識した発言が聞かれた。自分の「いのち」を支えてもらっている他の生き物への感謝の気持ちも高まってきているようだった。

③ 総合的な学習の時間「ナゴヤメダカを育てよう」(環境学習の一環)

活動

- 今まで学級で育ててきたナゴヤメダカについて話し合う。



[ナゴヤメダカ]

ナゴヤメダカの「いのち」を支えていることを知って、どんなことを考えましたか。



生き物は互いに支え合っていることがわかった。



人はいのちをもらっているので、たくさんのいのちを増やそうと思った。

[児童の意識]

前時の道徳の時間で学習した、人は生き物の「いのち」に支えられているということと結び付けて考え、支えられているだけでなく支えているということにも気付くことができていた。

④ 社会科「わたしたちの生活と工業生産」 9/23 時間

活動

- なぜ、自動車会社は環境にやさしい車の開発に力を入れているのか話し合う。

環境にやさしいと・・・ 「いのち」が増える」「生き物が増える」
「いのち」が守られる」

[児童の意識]

自然を守ることが、生き物の「いのち」を守ったり、「いのち」を増やしたりすることにつながるという意識になってきた。

⑤ 道徳「ホタルの舞う里」

3-(2) 自然愛・環境保全

(出典：「明るい心5年」 県教振)

[導入]

- ナゴヤメダカの飼育について振り返る。

[展開前段]

- 資料を読み、主人公高子の気持ちや考えを話し合う。

(抜粋：中心場面)



[飼育してきたナゴヤメダカを提示している様子]



[川を見て考える高子]

高子さんは、家の前を流れる川を見つめながら、どんなことを思い浮かべていたでしょう。



[ホタルの舞いを見る高子]



ホタルがいっぱい来るといいなあ。



そこらじゅうの川をきれいにしたい。



高子さんは川やホタルのことだけ考えていたのかなあ。



他の生き物も増やしたい。

いろいろな生き物のいのちを増やしていきたい。



[展開後段]

- 自然を大切にするとはいったいどういうことか、これまでの学習を振り返り、話し合う。

みんなにとって、自然を大切にするとはいったいどういうことですか。





人間と、昆虫や生き物、動物、植物が共存できるように、共に暮らせるようにすること。



[授業の様子]



地球を守っていくこと。

(生き物) みんな平等に暮らしていくこと。



(それには、わたしたちの) 自然を守る気持ちが大切だよね。

今まであまり気にしていなかったけど、(みんな) 支え合っているんだ。



[終末]

- 心のノート「生きているんだね 自然とともに」を読み、授業の感想を発表する。



[心のノート]



いろいろな生き物はつながっている。

[児童の意識]

中心場面で主人公の気持ちをじっくり考えさせたところ、児童の意識は「川」や「ホタル」から、他の生き物や生き物の「いのち」にまで広がった。これは、これまでの「関連プログラム」の学習を想起することができたからだと考える。そして、終末には「生き物同士が支え合っている。」「いろいろな生き物がつながっている。」という「関連プログラム」のねらいである共存性・共生性の考えに至っていた。

「関連プログラム」の有効性

展開後段や終末で共存性・共生性に関する発言が出たのは、これまでのプログラム②道徳と③飼育活動の学習が結び付き、生き物の「いのち」は互いに支え支えられるものであるという意識が高まったからだと考える。また、④社会科により、身近な生き物から自然環境や地球規模にまで児童の意識が広がったことも関連していると考えられる。このように児童の様々な発言から、関連プログラムでの共存性・共生性に関する学習の有効性がうかがわれた。

○ 授業研究略案

第5学年○組 道徳学習指導案

1 主題名 ホタルの舞う里 (3-(2) 自然愛・環境保全)

2 指導計画 (1時間完了)

3 本時の指導

(1) 目標

生き物が生きていくことの難しさが分かり、自然を大切にしようとする気持ちを高める。
【発言, ワークシートへの記述】

(2) 準備

教師 ・明るい心 ・道徳プリント ・液晶プロジェクター
・ホタル(成虫・幼虫)の写真 ・ホタルのビデオ

児童 ・明るい心 ・心のノート

(3) 関連

4年「わたしのジュリー」 6年「ひとふみ十年」

(4) 指導過程

時間配分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価の観点と方法
5分	1 ナゴヤメダカを飼育してきた体験を振り返り、感想を発表する。	○ 発問の前に、育ててきたナゴヤメダカを実際に提示し、活動を想起しやすくする。	○ ナゴヤメダカの飼育の様子を想起することができたか発言からつかむ。
21分	2 資料「ホタルの舞う里」を読み、主人公の気持ちを考える。 ○ ホタルの舞いを見たとき ○ ホタルの話をお父さんから聞いたとき ○ 家の前を流れる川を見つめているとき	○ 資料を読む前に、ホタルが舞っている映像を見せ、資料に登場する情景を想像しやすくする。 ○ ホタルの映像を想起させる。 ○ ホタルの数が減ってきたこと、ホタルが成虫になるまでの苦労などを分かりやすく板書してまとめる。 ○ 川やホタルの意見しか出ない場合、「川やホタルのことだけかな」と言って視点を広げさせる。	○ 生き物が生きていくことの難しさが分かり、自然の大切さを感じ取ることができたか、発表からつかむ。
13分	3 自然を大切にすることは、どういうことか、これまでの学習を振り返り、話し合う。	○ 道徳プリントに自分の考えを書かせ、考えを深めたり、まとめたりできるようにする。 ○ 児童の発言の中に「いのち」「自然を守る取り組みや努力」「自然を大切にしたい気持ち」という言葉が出てきたら、具体的にはどんなことか、発言をした児童だけでなく、他の児童にも投げ掛け、考えを深めるようにする。	○ 生き物が生きていくことの難しさが分かり、自然を大切にしようとする気持ちが高まったか、発言やプリントへの記述からつかむ。
6分	4 心のノート p. 60 「生きているんだね 自然とともに」の感想を発表する。	○ 本時の感想を道徳プリントに書かせ、発表させることで、本時を振り返り、人間と自然と他の生き物について自分の考えをまとめられるようにする。	○ 自然を大切に、他の生き物と共に生きていこうとする気持ちが高まったか、表情や感想からつかむ。

○ 研究協議会 ～質疑応答～



展開前段の最後の発問「高子は家の前に流れる川を見つめながら、どんなことを思い浮かべていたでしょう。」では、川やホタル以外の考えを引き出す場面があったが、その意図を教えてください。

回答

この後の展開後段では、これまでの「関連プログラム」での学習を振り返って、自然や生き物の「いのち」についても考えさせたかったので、ここで児童の意識を川やホタルから広げるために「川やホタルのことだけ考えていたのかな。」と補助発問をしました。



この「関連プログラム」の中で、児童が強く「いのち」を意識できたのは、食育で「ブタさん、いのちをありがとう」のビデオを見せたことが大きな影響を与えていると思います。ブタが実際に殺され、肉になっていく様子を見せるという、児童にとってはショッキングな映像を見せるにあたって工夫されたことはありませんか。

回答

多分、ショックを受けた児童もいると思います。しかし、その後のプログラムで、「ブタの『いのち』を無意味に奪っているわけではなく、我々はその『いのち』をいただいて、『いのち』を支えてもらっている。」という意識をもたせようと、道徳の授業で「いただきます」という言葉の意味を改めて考えさせました。また、「人間も他の動植物の『いのち』を支えている。」という意識をもたせるために、ナゴヤメダカの飼育を振り返らせる話し合いをしました。

感想

子どもたちは、努力点のテーマである「環境」についての学習を進めています。今日の授業は、道徳と環境教育の関連が図られていて、児童は、より深く考え、発言も多かったと思います。



【有限性・唯一性】に重点を置いた「関連プログラム」

小学校1年生〔9～10月〕

プログラムのねらい

身近な自然の中で生きている生き物の「いのち」に気付き、触れ合うことを通して、生き物がたった一つだけもっている、かけがえのない「いのち」を大切にしようとする気持ちを高める。

① 生活科

「むしと なかよし」（7時間）

身近な虫との触れ合いを通して、自分と同じように虫にも「いのち」があることに気付く。



② 道徳

「せみが うまれた」（1時間）

3-1 生命の尊重

身近にいる生き物にも「いのち」があり、生きていることに気付き、生き物の「いのち」を大切にしようとする気持ちをもつ。



〔セミの羽化〕

③ 国語科

「てんとうむし」（3時間）

詩の内容を味わい、どの生き物にも同じように一つずつ「いのち」があることに気付く。



〔教科書の挿絵〕

④ 道徳

「うみがめのあかちゃん」（1時間）

3-1 生命の尊重

生き物が「いのち」を懸命に生きる姿を通して、一つしかない「いのち」を大切にしようとする気持ちを高める。



〔ウミガメの赤ちゃん〕

① 生活科「むしと なかよし」6/7時間

活動

○ 学校内や学区の公園でつかまえ、世話をしてきた虫の様子を発表する。

※ 教師が「かごの中に入れて飼っていると、だんだん弱ってしまう虫もいるんだね。」と投げかけると・・・

【児童の反応】 ・元いた場所に返そう ・逃がすのは嫌だ
 ・また、つかまえてくる



【虫をつかまえる児童】

② 道徳「せみが うまれた」 3-(1) 生命の尊重

(出典:「明るい心1年」県教振)

[導入] ○ 生活科「むしと なかよし」で虫と触れ合った経験を振り返る。

[展開前段] (抜粋) ○ 主人公がセミの羽化する様子を見ている場面で・・・



【見せた映像の一場面】

セミやチョウが羽化する映像を見せると



もう少し・・・頑張れ!

無事に殻からでられてよかった。



生まれた(羽化した)ばかりのチョウや
 セミはちゃんと飛べるかな・・・心配。

[展開後段] ○ 生活科の時間に飼っていた虫に手紙を書く。



これからもちゃんとお世話するね。



いつまでも元気でいてね。

【児童の意識】

①生活科の学習では、「虫も『いのち』あるもの」というとらえが不十分だった。しかし、この授業で羽化の映像を見せたり、虫を世話する体験を振り返らせたりして、「いのち」について考えを深めたことで、小さな生き物をいとおしむ気持ちが高まってきた。

③ 国語科「てんとうむし」2/3時間



活動

○ 「てんとうむし」(詩)を読み、生き物の「いのち」について考える。

「ちいさくても ぞうと おなじ いのちを いっこ もっている」

※ この一節に着目させ、「『いのち』を一個もっているものには、他に何がありますか。」と聞いた。児童からは「イヌ、バッタ、ハムスター、キリン、イルカ」などの生き物があがった。「人間」という発言が出た後、「みんなの『いのち』は、どこにありますか。」と聞くと、胸のあたりを押さえていた。さらに「『いのち』って、どんな形？」と聞くと、多くの児童がハートの形を書いていた。

④ 道徳「うみがめのあかちゃん」 3-(1) 生命の尊重

(出典：「1年生のどうとく」文溪堂)

[導入] ○ 自分が知っている「いのち」をもっているもの(生き物)を挙げる。

[展開前段](抜粋) ○ 誕生したうみがめが広い海に出て行く場面で・・・



広い海で生活する赤ちゃんは、
どんな気持ちでしょう。

大変だけど頑張って生きるよ。



[展開後段] ○ 懸命に生きる生き物の姿を見た経験を振り返り、話し合う。



**一個だけの生き物の
命を大切にしたい。**

**一生懸命
生きているんだなあ。**



[終末] ○ 国語で学習した「てんとうむし」の詩を全員で朗読する。

[児童の意識]

最後には、どんな生き物にも「いのち」が一つだけあり、一生懸命頑張って生きているという考えに至っていた。終末で、「ウミガメも『いのち』を一個だけもっていて、一生懸命生きているんだね。」と話すと、児童たちは一様にうなずき、納得した様子だった。

「関連プログラム」の有効性

虫を飼育するという共通体験からスタートし、小さな生き物でも「いのち」を一個もっていること、一生懸命生きていることを知る「関連プログラム」を構成した。それによって、1年生として感じてほしい「生き物のもつたった一つの『いのち』を大切にしよう。」という有限性・唯一性のねらいに迫ることができた。

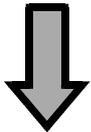
【存在性・尊厳性】に重点を置いた「関連プログラム」

小学校3年生〔9～10月〕

プログラムのねらい

今の自分に至るまでの周りの人の思いを考えることで、生を受けたことのすばらしさや、自分の命がかげがえのないものであることに気づき、自分の「いのち」を大切にしようとする気持ちを高める。

① 総合的な学習の時間



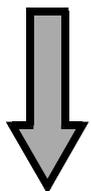
「生き立ちのひみつをさぐろう」(10時間)

生育の過程や家族の思いを知ることで、生を受けたすばらしさを感じ取る。



〔児童の作った生き立ちの記録〕

② 道徳



「あぶない大通り」(1時間)

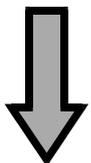
3-(1) 生命の尊重

家族の思いを振り返らせることで、「いのち」の尊さに気づき、「いのち」を大切にしようとする気持ちを高める。



〔資料の一場面〕

③ 国語科



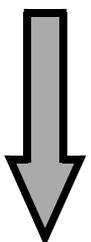
「おすれられないおくりもの」(13時間)

死んでも、記憶の中で生き続けるという「いのち」の存在の大きさを感じ取る。



〔教科書の挿絵〕

④ 道徳



「生きているしるし」(1時間)

3-(1) 生命の尊重

自分の「いのち」が多くの祝福の中で生まれた、かけがえのないものであることを感じ取り、精一杯生きようとする気持ちを高める。



〔資料の一場面〕

⑤ 国語科

「手紙でつたえよう」(7時間)

これまでの学習を振り返り、家族に感謝の手紙を書くことで、産んでもらった「いのち」を大切に生きようとする気持ちを高める。



実践例3【存在性・尊厳性】に重点を置いた「関連プログラム」（小学校3年）

① 総合的な学習の時間「生い立ちのひみつをさぐろう」

活動

- 生まれたときの様子やこれまでのエピソードを家族に取材する。
- 取材したことを基に「生い立ちの記録」を作成する。

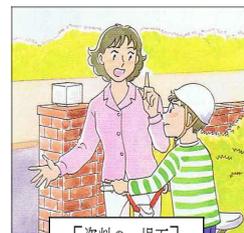


② 道徳「あぶない大通り」 3-(1) 生命の尊重

(出典:「明るい心3年」県教振)

[導入] ○ 「いのち」の大切さについて話し合う。

[児童の反応] ・お父さんやお母さんがくれたものだから
・もし、死んだら家族が悲しむから



[展開前段] (抜粋) ○ 主人公が大通りで事故に遭いそうになり、自転車を引いて帰る場面。

自転車を引いて帰るとき、ひろしは、どんな気持ちでしたか。



注意されて腹が立ったけど、それぐらい心配してくれたんだと思う。



お母さんの思いも考えずに、心配を掛けて申し訳ない。

[展開後段] ○ 危険な目にあった経験やそのときの家族の様子を振り返って話し合う。

[児童の意識]

①総合的な学習の時間「生い立ちのひみつをさぐろう」の学習を行ったことで、導入から展開前段にかけて、児童は心から心配する家族の思いについて深く考えることができていた。

③国語科「わすれられないおくりもの」9/13時間

活動

- 「あなぐま」が死んだ直後の周囲の動物たちの気持ちを考える。
- ※ 残された周囲の仲間の悲しみをとらえさせることで、「いのち」の存在の大きさについて押さえる。



○ 思い出を語り合う動物たちの気持ちを考える。

※ 死んでも、周囲の人たちの胸に残り続ける「いのち」の存在の大きさについて押さえる。

④ 道徳「生きているしるし」 3-(1) 生命の尊重

(出典：「読み物資料とその利用」文部省)

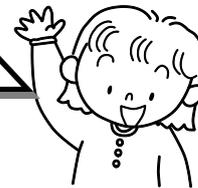
[導入] ○ 心音を聞き、生きていることを実感する。

[展開前段] ○ 主人公の気持ちを考える。

[展開後段] ○ 「いのち」を大切にすることは、どういうことかを話し合う。



**「いのち」にはいろいろな人の思いが
込められているからこそ、大切にしたい。**



[終末] ○ 幼いころの写真のスライドを見る。

[児童の意識]

展開後段での話し合いでは、これまでの学習を振り返り、家族の多くの愛情を受けて生きている自分の「いのち」だからこそ、頑張って生きなければならないという意識を強く感じる事ができた。

⑤ 国語科「手紙でつたえよう」 3・4 / 7時間

活動

○ これまでの「関連プログラム」での学習を振り返り、日ごろ、なかなか言えない家族に対する感謝の気持ちを手紙で伝える。

「関連プログラム」の有効性

自分の誕生や生い立ちに関する取材と「生い立ちの記録」の作成からスタートし、家族の思いを受けた「いのち」だからこそ、大切にしなければならないことを考える「関連プログラム」を構成した。それによって、「みんなの思いが込められた『いのち』を頑張って生きよう。」という意識にまで高める事ができた。

【連続性・継続性】に重点を置いた「関連プログラム」

小学校6年生〔9～10月〕

プログラムのねらい

「いのちのバトン」をキーワードに、自分の「いのち」は昔から受け継がれて今ここに生きていることを知り、一生懸命生きていくことで、未来に「いのち」を受け継いでいこうとする気持ちを高める。

① 道徳

「いのちのバトン」(1時間)

3-(1) 生命の尊重

「いのち」の歴史を数字でとらえることで、受け継がれてきた自分の「いのち」を尊さを知り、「いのち」を大切に生きようとする気持ちを高める。



[書籍「いのちのバトン」]

② 国語科

「川とノリオ」(7時間)

ノリオの気持ちを父や母の思いを押し量りながら考えることで、家族のつながりの大切さに気付く。



[教科書の挿絵]

③ 社会科

「長く続いた戦争と人々の暮らし」(6時間)

戦争によって、多くの「いのちのバトン」が壊れてしまったことを知り、残され、今も続いている「バトン」の大切さに気付く。



[平和の礎(沖縄県)]

④ 道徳

「おじいちゃんの命」(1時間)

3-(1) 生命の尊重

自分が受け継いだ「いのちのバトン」を大切に、充実した生き方をしようとする気持ちを高める。



[資料の一場面]

⑤ 学級活動

「『いのち』ってどんな形」(1時間)

自分が考える「いのち」を形や色で表し、その理由を考えることで、自分が受け継いだ「いのちのバトン」である「いのち」を精一杯生きる気持ちを高める。



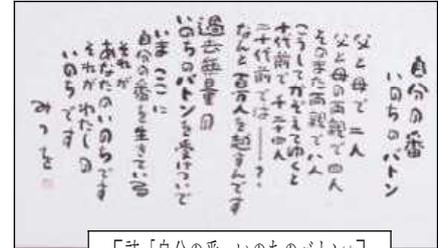
実践例4【連続性・継続性】に重点を置いた「関連プログラム」（小学校6年）

① 道徳「いのちのバトン」 3-(1) 生命の尊重

(出典:「しあわせはいつも」相田みつを 文化出版局)

[導入] ○ 「いのちの樹形図」を見て感想を發表し合う。

[展開前段] (抜粋) ○ 詩「自分の番 いのちのバトン」を読み、受け継がれてきた「いのち」について話し合う。



[詩「自分の番 いのちのバトン」]



**与えられた「いのち」ということを初めて考えた
むだにしないで生きていきたい。**



人の役に立って、しっかりバトンを受け継いでいきたい。

[展開後段] ○ 「いのち」について考えた感想を發表する。

[児童の意識]

「受け継がれてきたいのち」という児童にとって初めての認識が新鮮に感じたようだった。子どもたちの心に「いのちのバトン」がキーワードとして残ったようだった。

② 国語科「川とノリオ」5/7時間

活動

○ 父と母を失ったノリオの気持ちを考える。



[教科書の挿絵]

【児童の反応】

- ・ 死んでしまったということは、「いのちのバトン」が止まってしまったということだね。
- ・ ノリオは父ちゃんや母ちゃんから受け継いだバトンをつないでいこうと思ったんじゃないかなあ。

③ 社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」6/6時間

活動

○ 戦争で多くの「いのち」が失われたことについて話し合う。

【児童の反応】

- ・ 戦争で無くなってしまったバトンもたくさんあるけど、受け継がれたバトンがあるって考えると「いのち」を大切にしなければと思う。

④ 道徳「おじいちゃんの命」 3-(1) 生命の尊重

(出典：「明るいまね6年」 県教振)

[導入] ○ 「いのちのバトン」について、これまで考えてきたことを発表する。

[展開前段] (抜粋) ○ 仏壇の前でおじいちゃんのことを思う主人公の気持ちを考える。



亡くなったおじいちゃんのことを思って
どんなことを考えたでしょう。



**ずっと前から受け継がれた自分の「いのち」だから、
わたしも一生懸命生きて、受け継いでいかなきゃ。**

[展開後段] ○ 自分の「いのち」を大切にしたい生き方について考える。



**受け継いでくれた
人や親を裏切らない
ようにしたい。**

**後悔しないように自分が
すべきことをして、受け
継いでいきたい。**



【児童の意識】

国語科や社会科の学習を通して、「自分も『いのちのバトン』を受け継がなければ。」という意識が芽生えてきた。この道徳の時間では「一生懸命生きて、バトンを受け継いでいきたい。」という意識が高まってきた。

⑤ 学級活動「『いのち』ってどんな形」

活動

- これまでの学習を振り返り、「いのち」の形や色を考え、どうして、その形や色になったのか、理由も考える。

「関連プログラム」の有効性

【連続性・継続性】の「関連プログラム」ということで、「いのちのバトン」をキーワードに学習を進めてきた。その結果、「受け継いできた。」だけでなく、自分の「いのち」を「一生懸命、悔いの無いように生き、受け継いでいかななくてはいけない。」という意識まで高まってきた。

【存在性・尊厳性】に重点を置いた「関連プログラム」

中学校1年生〔9～10月〕

プログラムのねらい

授かった「いのち」の大切さを感じ取り，目標に向かって自己を高め，自分の「いのち」を輝かせようという気持ちを高める。

① 保健体育科

「生命の誕生」(3時間)

限られた「いのち」を精一杯生きるという内容の詩を読むことで，自分の生き方を見つめ，「いのち」を大切にし，生きようとする気持ちを高める。



[教科書の挿絵]

② 道徳

「挫折からの復活」(1時間)

1-(2) 強い意志

より高い目標を目指して生きることのすばらしさに気づき，希望と勇気をもって努力しようとする気持ちを高める。



③ 保健体育科

「思春期における心の健康」(3時間)

目標への取り組みがうまくいかず，挫折感を味わったとき，目標の実現に向けて，よりよい自分のあり方を考えることの大切さに気付く。



[教科書資料]

④ 道徳

「自分を信じて」(1時間)

1-(2) 強い意志

挫折しそうになっても，気力を振り絞って努力することの大切さに気づき，粘り強くやり抜こうとする気持ちを高める。



[資料の一場面]

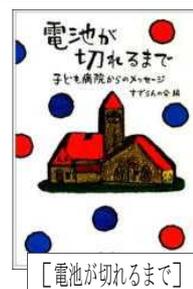
実践例5【存在性・尊厳性】に重点を置いた「関連プログラム」（中学校1年）

① 保健体育科「生命の誕生」3 / 3時間

活動

- 学習してきた生命誕生のしくみを振り返り、詩「電池が切れるまで（出典：「電池が切れるまで-子ども病院からのメッセージ-」すずらんの会編 角川書店※）」を読み、感想を発表し合う。

- ※ 長野県立こども病院にある院内学級の、重病、難病に冒された、常に「命」「死」を意識せざるを得ない子どもたちが書いた詩集。この詩集を読み聞かせることで、自分が授かった生の在り方を生徒に見つめ直させる。



② 道徳「挫折からの復活」1-(2) 強い意志

(出典：DVD「マイケル・ジョーダン HIS AIRNESS」ワーナーホームビデオ)

- [導入] ○ マイケル・ジョーダンについて知っていることを発表する。

- [展開前段] (抜粋) ○ マイケル・ジョーダンの姿から感じたことについて話し合う。



試合で華やかに活躍する姿を見て・・・

生きている世界が違う。

挫折を味わい、地道に努力をしている姿を見て・・・

成功を収めた人でも、あんなに苦勞している。

- [展開後段] ○ 保健の授業も振り返り、自分を輝かせるにはどんなことが大切か話し合う。

【話し合いでの生徒の反応】

- 地道な努力こそが、その人を輝かせる。
- せっかく生まれてきたんだから、自分のできることはやっていきたい。

[生徒の意識]

保健の学習で生まれてきたことの喜びを感じ取っていたので、授かった自分の生を輝かせることの大切さに気付き始めていた。雲の上の存在だった人物の地道に努力する姿に、同じ人間なんだと親近感を覚え、努力して生きることの大切さを感じ取っていた。

③ 保健体育科「思春期における心の健康」 2・3 / 3時間

活動

- 思春期における欲求のあり方を理解する。
- 挫折しそうになったときのストレス・葛藤・欲求・発散・安定の心のはたらきを理解し、似たような経験について話し合う。



[教科書資料]

④ 道徳「自分を信じて」 1-(2) 強い意志 (自作資料)

※ 体育大学受験3週間前に交通事故に遭い、両足のじん帯を切断してしまった主人公が絶望せずに夢に向かって前向きに努力するという内容。(教師の実話を基にしている。)



[授業の様子]

[導入] ○ 24時間テレビのマラソンについて、知っていることを発表する。

[展開前段] (抜粋) ○ 挫折から立ち直ろうとする主人公の支えとなった気持ちについて話し合った場面。



夢だからあきらめられない。



自分が今できることをやればいいんだ。

[展開後段] ○ これまでの学習を振り返り、これからの生き方や行動について考える。

【生徒の意見】

- 壁にぶち当たるのは、みんな同じ。そこから一步踏み出すことで夢に近づける。
- 生まれてきたことを無駄にしないで、努力して自分を高めていきたい。

[終末] ○ 普段から学級で聞いている GReeeeN の「歩み」という曲を聞く。

[生徒の反応]

生きていることに感謝し、今の自分をしっかり見つめ、目標に向かって努力し、自分を高めていこうとする気持ちをもつことができた。

「関連プログラム」の有効性

中学校1年生という発達段階を考えて、「いのち」を輝かせるために夢に向かって努力することが大切だと実感できるような【存在性・尊厳性】の「関連プログラム」を構成し実践した。生まれてきたことに感謝する保健の授業からスタートしたことで、「奇跡と偶然で授かった『いのち』だから、漠然と日々を過ごすのではなく、努力して自分を高めよう。」という意識が高まった。

VII まとめ

『いのち』の大切さを学ぶ「道德教育」をテーマに、「いのち」の大切さを多面的な視点からとらえ、他教科等の学習や体験活動と、道德の時間とを意図的に関連させた「関連プログラム」を構成し実践に取り組んできました。その結果、次のような成果と課題が明らかになりました。

成 果

- 「いのち」の大切さを五つの視点からとらえ、それぞれの視点に焦点を当てた「関連プログラム」を構成したことで、子どもたちは「いのち」の大切さについてねらいがぶれることなく考えることができた。
- 他教科等の学習や体験活動と、道德の時間とを意図的に関連させた「関連プログラム」を構成したことで、道德の時間に各教科等の学習や体験活動での共通体験を基に話し合うことができ、「いのち」の大切さについて多面的な見方をもつことができた。

課 題

- 一年間で五つの視点すべてを網羅した「関連プログラム」を構成するのは難しい。そこで、今後は発達段階を考慮し、どの発達段階で、どの視点に重点を置いた「関連プログラム」を実践するのが効果的か検討していきたい。

VIII おわりに

「いのち」の大切さを学ぶ「関連プログラム」を実践した先生の感想です。

「いのち」の大切さについて、「一つしかないから。」とだけ答えていた子どもたちが「関連プログラム」を実践したことで、「ずっと受け継がれてきたものだから。」「他の生き物と支え合っているものだから。」という考えがもてるようになりました。

自分の学級だけでなく、同学年の他の先生にも同じように実践してもらいました。「『いのち』の大切さって、こちら（教師）側も結構漠然としていたけど、伝えたり、考えさせたりする視点を絞ることでやりやすかった。」という感想を聞くことができました。学年にも還元できてよかったです。

この会報を参考に皆さんもぜひ実践してみてください。

本年度のあゆみ

月	日	授 業 づ く り 研 究 部 会	テ ー マ 研 究 部 会
4	12	研 究 部 員 募 集	
5	7	研 究 部 員 総 会	
		道徳の授業づくりについて	テーマについての共通理解
	26	道徳教育・道徳の時間について	ねらいに迫るための手立ての検討 および資料の選択 「授業研究」指導案検討①
6	15	教師が資料をより深く理解するには…	各教科等・体験活動と関連づけた 道徳授業の検討 「授業研究」指導案検討②
7	15	教師の発問で大事なコツは…	1学期の実践報告と検証 「授業研究」指導案検討（細案）①
8	23		「授業研究」指導案検討（細案）②
	30	夏季道徳講座 「何故、道徳の時間の指導が必要ですか？」 （講師 城西小学校長 安田隆先生）	
9	2	考えを深める話し合いについて	2学期実践の検討① 「授業研究」指導案検討（細案）③
	28	ねらいにつながる導入・終末について	2学期実践の検討② 「授業研究」の模擬授業
10	15	授業研究リハーサルへの参加	「授業研究」リハーサル
	22	道 徳 授 業 研 究 ・ 研 究 協 議 会	
	26	児童が意欲的に考えるための工夫について	「授業研究」の成果と課題についての検討 これまでの各実践における成果と 課題についての検討
11	18	資料で学んだ価値を 多様な生活場面へ広げるには…	「授業研究」まとめ最終検討
12			
1	7	1年間の研究のまとめ	1年間の研究のまとめ
	11	会 報 発 行	
	18	研 究 発 表 会 リ ハ ー サ ル	
	26	研 究 発 表 会	
2	7	次年度への方向性の検討	次年度への方向性の検討
3			

※ 役員会 5/7, 19, 6/17, 7/27, 9/8, 10/7, 11/14, 12/3, 1/14,
2/17, 3/25

※ 1月以降については、予定が掲載されています。

あ と が き

ある中学校の学級で、「あなたは幸せになりたいですか？」と聞きました。

当然、ほとんどの生徒が「はい」と答えました。

次に、「どんなことが幸せだと思いますか？」と聞きました。

多くの生徒が、「好きなことをする。」「おいしいものを食べる。」と答えました。

価値観が多様化している現代、「幸せの形」も人それぞれです。確かに、好きなことをしたり、おいしいものを食べたりしているときに「幸せ」を感じることはあります。

でも、若者には、これからの社会を担っていくという大切な役割があります。

「社会や人の役に立つ」「目標を達成する」「自分のもっている能力を伸ばす」など、努力によってしか得られない生き方にこそ「幸せ」を求めてほしいと心から願います。

「教育とは、よき人生観の確立をさせること」

————— これは、尊敬している教育者の言葉です。

“よき人生観の確立”のためには、人生にとって大切な道徳的価値について、多くの人と話し合い、考えを深めていくことが必要だと考えます。

子どもたちが、「幸せな人生」を求めて努力していけるように、週1時間の道徳の時間を、充実させていきましょう。

本研究会では、平成17年度の発足以来、「心輝け！ 子どもたち！」を全体テーマとして掲げ、授業実践を中心に共同研究を進めてまいりました。子どもたちにとってよりよい道徳の授業を求めて、それぞれの部員が精一杯取り組んできた結果をここにまとめさせていただきました。まだまだ十分に深めることができませんでしたが、ご高覧いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本研究会に対しまして格別なご指導、ご支援を賜りました先生方ならびに関係諸機関の皆様にご心よりお礼申し上げます。

名古屋市道徳研究会委員長

植田南小学校 服 部 豊